

松葉学園グループ

集合広報集落

松葉村



秋を迎えて



松葉学園
施設長 川中 和史

長袖が必要になってきました。宇和盆地に、恒例の朝霧もかかり、稲刈り後のたんぼには、すずめが舞い降りて、残穂をつついていきます。

さて、私事ですが昨今、新聞や雑誌をメガネを少しずり下げて読み始めました。昔々、ばあちゃんが、縁側でメガネをずらして、子どもだった私の破れたズボンの繕いをしていていた風景が思い浮かびます。

当学園入所利用者の中の十数名は、私が二十数年前に就職しました時より確実に二十数年経過しました訳で、ある人は頭が涼しくなったり、ある人は、歩くスピードが格段に遅くなったり……。高齢化の波は、確実にやってきています。最期まで見たいというのは、私の切なる希望でありますし、保護者の方々の強い希望であることも承知しております。

しかし、結論的なものは、個々人に合わせてとしか、今は、答えることができない現実。それには、様々な問題があります。ひとつひとつ、精査していかなければなりません。

「老いるとは 熟することよ 梅の花」

年を重ねることは、熟することであり、熟すればおいしい梅となる（少しすっぱいですが……）。誰もがたどる道です。しかし、笑って最期を迎えればどんなに幸せなことか。

メガネを、ずり下げて書類に目を通しながら、今日も考えています。幸せとは、人生とは、寄り添うとは……。

最後に一句

「世の中は 喰うて 稼いで 寝て起きて

さてその次は しぬばかりなり」 一休禅師